

令和7年度 都城市立白雲小・中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立白雲小・中学校		校長名	児玉 剛	
学級数	4	児童生徒数	9名(R8.2.1現在)	職員数	11名
教育目標	自ら考え、適切な判断を行い、行動する児童生徒の育成				

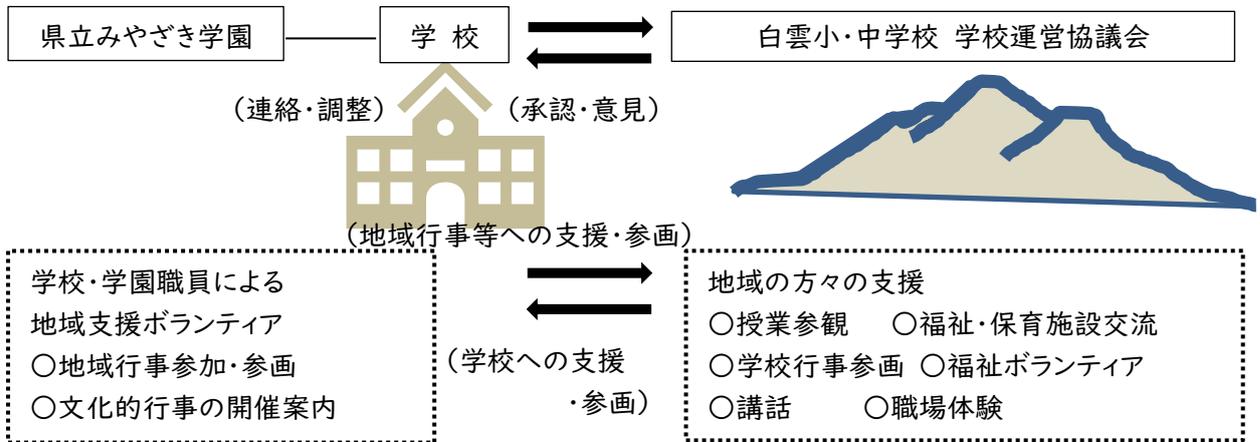
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計2名)

No.	所属名(役職)	氏名	備考
1	人権擁護委員	山川 裕彦	会長
2	特別養護老人ホーム ほほえみの園 施設長	吉村 陽子	副会長
3	かなだ認定こども園園長	高光 孝博	
4	志和池地区生活支援 コーディネーター	瀬戸山 みよ	
5	都城市社会福祉協議会 山田サテライト	大牟田 智子	
6	山田地区民生委員	川崎 照子	
7	県立みやざき学園園長	大坪 克弘	

事務局	役職	氏名
	校長	児玉 剛
	教頭	中谷 義治

(2) 組織編制 (説明)



3 活動報告

月日	主な活動及び内容
4月	○ 学校運営協議会委員選出
5月29日	○ 第1回学校運営協議会(委嘱状交付、年間活動計画、学校経営方針説明、授業参観)
7月9日	○ 第2回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、学校評価基本方針説明、授業参観)
7月30日	○ 志和池・白雲校区4校合同学校運営協議会(各校の1学期の取組、対話)
11月8日	○ 第3回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、自己評価項目検討、ふれあい祭参観)
11月18日	○ 地域交流活動(まんがつか認定こども園との交流会)
12月11日	○ 第4回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、自己評価結果報告)
1月16日	○ 第5回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、学校の自己評価結果説明、学校関係者評価の実施)
2月	○ 本年度の成果と課題、次年度の方向性検討、学校評価報告書作成
3月	○ 次年度への引継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

志和池中校区4校合同で学校運営協議会を開催し、上記のテーマで熟議を行った。本校は、志和池地区出身の児童生徒ではないが、志和池地区が「心のふるさと」になるような取組を行っていききたい。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

委員より紹介していただいた方を講師に招いて、本校でキャリア講話を実施した。当日は、元海上自衛官の方を講師に招き、仕事で南極に赴いた自身の経験を、南極とテレビ電話をつなぎながら話してくださった。生徒たちは、自分自身のキャリアプランと重ね合わせながら興味深く話に聞き入っていた。

また、講話終了後には質問をするなど、とても有意義な時間を過ごすことができた。



【キャリア講話の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

例年実施している近隣の「まんがつか認定こども園」園児との交流会を今年度も実施した。当日は、児童生徒が徒歩で園児を迎えに行き、一緒に徒歩で本校まで帰ってきた。実際に弟や妹がいる児童生徒も多く、手をつないで車道側を歩くなど園児を気遣う場面が随所に見られた。

本校についてからは、児童生徒が考えたゲームで交流を深め、最後は、園内の畑で芋ほりを楽しんだ。



【園児との交流会】

(3) 地域貢献活動

本校に隣接する特別養護老人ホーム「ほほえみの園」で、毎月1回入所者や利用者を対象に施設内カフェを開業している。「このカフェの営業を手伝ってほしい。」と施設長である委員より声をかけていただき、今年度より毎月、ボランティアで手伝いに行っている。

本校の児童生徒がカフェの店員、施設利用者が客という想定で、注文をとったり商品を運んだり、カフェ店員の業務を行っている。客は高齢者が多いため、同じ目線になって会話をしたり、安全を確認しながらゆっくりと車いすを押したりするなど普段の学校生活では見ることのできない姿を見ることができ、有意義な時間となっている。



【施設内カフェでのボランティア】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 様々な問題を抱えている本校の児童生徒のありのままの姿を、委員はもちろん多くの地域の方に見ていただくことで、地域にある学校として認知されてきている。
- 児童生徒の中にも「地域の人喜んでくれると嬉しい。」という感情が芽生えはじめている。
- 協議会の内容を更に充実させ、委員の意見を多く引き出す方策を検討していきたい。
- 地域との交流に関してさまざまな制限がある本校だが、更に地域と交流を深められるよう、行事を工夫していく必要がある。

7 次年度の方向性

- 更に地域に根ざした学校となるような取組を進めていきたい。
- 児童生徒の中にも「地域に貢献できる喜び」を実感させられるような行事等を計画していきたい。